平成27年度学校評価自己評価表

福島県立福島南高等学校

学校経営運営ビジョン		自己点検（実施状況と評価）				アンケート集計結果			分析と課題
	重点努力事項	４段階評価　４◎：８０%以上達成　３○：６０%以上達成　２△：４０%以上達成　１▼：２０%以上達成	評価点	平均	判定	４段階評価 生徒	保護者	教職員	
文理科目標	１　難関大学,国公立大学等への合格者の増加 ・国公立大学等の合格者数の増加を目指します。 ・センター試験の受験を奨励するとともに、各種試験の受験指導に努めます。	・2/22現在合格者数：国公立大9,私大64,私短1,看医専8,専門6,未定11 ・３年生は早い時期から受験勉強に取り組めた生徒は少なかった。２年生は課外に申し込んだ生徒は熱心に取り組んだ。 ・大学見学会は、大学進学への意識づけとなった生徒が多い。	3.0	3.0	○	3.0	3.1	2.8	・受験科目として必要な科目は、課外を受講するよう指導が必要である。 ・進路指導部と連携した行事を引き続き実施する。
	２　総合的、専門的な学習の深化 ・授業やサイエンスセミナー等を通して、文理の学問的な探究心を伸ばします。	・１年生は、研究テーマに対する取り組み方、まとめ方、発表については時数の面からも不十分であった。	3.0						・サイエンスセミナーは、引き続き実施するが、その効果的な実施のあり方を検討する。テーマ設定や２年生との関わりついて工夫が必要である。
国際文化科目標	１　語学力を生かした難関大学等への合格者の増加 ・難関大学等の合格者数の増加を目指します。 ・英検２級の合格者を増やし、仏検、GTEC、ＴＯＥＩＣ等に積極的に挑戦させます。	・2/22現在合格者数：公立大2,私大30,私短3,看医専2,専門2,留学2,未定5 ・第２回までの英語検定には、２級１３名、準２級３３名合格し、昨年度より２級に８名、準２級に２４名合格者が増加した。 ・仏語検定５級に１０名受験し全員合格した（英検２級に相当する大学がある）。 ・異文化理解の授業は、２年で「文化」３年でスキットやテーマライティング活動を行った	4.0	3.5	○	3.4	3.5	3.0	・更に国際理解の授業で交流する国を開拓し、活発な活動としたい。 ・英語検定で課外を実施し、モチベーションを上げた。今後も実施していきたい。
	２　国際理解教育や国際交流事業の充実 ・国際理解セミナーやＫＧＧＳ姉妹校交流などの充実に努めます。	・KGGS姉妹校交流や東南アジア青年の船を通して、アメリカや東南アジアの様々な外国人とふれあうことができた。 ・国際理解セミナーは、ルワンダについて実施し、貴重な経験をさせることができた。	3.0						・事前学習することで、行事や活動の成果は何倍にもなるので、計画的に取り組んでいきたい。
情報会計科目標	１　高い課題意識と資格取得を生かした就職、進学の合格者の増加 ・高度な専門的資格を取得させ、就職、公務員、国公立大学に合格させます。 ・地域づくりセミナー等を通して課題意識を高めます。	・2/22現在合格者数：国公立大4,私大21,私短８,専門13,公務員18,就職14,未定4 ・応用情報技術者試験(大卒程度）の合格２名を筆頭に、全商３種目１級以上７６名中６７名合格を出すことができた。 ・資格を生かし、国公立大学等の合格者を出した。	3.0	3.0	○	3.3	3.2	3.3	・日商簿記検定２級の出題区分変更に伴う対策強化が必要である。 ・地域づくりセミナーの開催時期の検討が必要で、早い時期からの課題意識を持たせたい。
	２　商業関係各種競技大会への積極的な参加 ・全国大会への出場を果たします。	・電卓、情報処理競技大会で全国大会出場を果たした。 ・専門学校教員による日商簿記１級講座を開催した。	3.0						・本年度は情報系の高度資格取得講座を開催できなかったので、来年度実施したい。
共通目標	１　生徒の生活習慣を確立させ、規範意識を高めます ・あいさつや制服の正しい着こなし、遅刻防止、全員清掃等の、生活習慣を確立させます。 ・いじめ等の非行防止を徹底します。	・昇降口指導等の成果があり、制服の着用の改善や遅刻者数の減少に努めている。 ・いじめアンケートを年３回実施した。（生徒指導部、各学年） ・全員清掃は良くなされている（厚生部） ・外部の専門機関と連携し不適応傾向の生徒の支援を図ることができた。（教育相談部）	3.1	3.2	○	3.4	3.5	3.0	・引き続き遅刻者数減少と服装指導を含めた生活習慣の育成を行う方策を検討する必要がある。 ・ゴミの分別の徹底を図る必要がある。 ・教職員対象の研修会の実施し、校内全体での支援ができるようにする必要がある。
	２　生徒の安全・防災意識と健康意識を高めます ・交通安全意識を高め、自転車事故等の絶無を目指します。 ・部活動の自主的な活動を充実させます。 ・教育相談や保健指導の充実に努め、生徒が自らの健康を保持増進する力を高めます。	・交通安全指導を年５回、計１０日間実施、自転車事故件数は４件減少し７件であった。（生徒指導部） ・虫歯の治療率が、昨年度より44.5%UPの77.5%となった。（厚生部）	3.2			3.3	3.4	3.1	・交通事故発生が集中している前期に交通安全指導の強化を図る必要がある。 ・保健委員の自主性を引き出し、さらに活発な活動になるように努める。 ・生徒が他者理解を深めるため、コミュニケーションの力を高める方策を検討する。
	３　生徒の自ら学ぶ態度を育成します ・家庭学習や朝自習に積極的に取り組ませ、自学自習の態度を養います。 ・総合的な学習の時間や課題研究での探究的な学習への支援を充実します。	・週末課題や予習復習の習慣化を図る課題を行い学習時間の確保に努めた。（各学年） ・家庭学習時間調査を年４回行い、クラス等の指導に生かした（教務部） ・図書館の利用者数が1日あたり10人程度増加し53.1人となった。（図書視聴覚部）	3.2			2.9	3.2	2.8	・自ら学ぶ態度を育成し、家庭学習時間の継続を図る必要がある。
	４　読書活動と図書館利用を推進します ・読書のＰＲの工夫、授業やＨＲ等との連携を進めて、図書館利用や読書量の増加を図ります。	・一人あたりの年間貸出数が昨年度より０．２冊増加し、３．０５冊（１２月現在）となった。（図書視聴覚部）	3.0			2.6	2.6	2.6	・図書の内容に関する情報提供の工夫を検討する。
	５　体験活動を通して豊かな情操や国際理解を養います ・芸術鑑賞会や海外修学旅行等の体験活動を通して、生徒の情操を高め、国際的な視野を広めます。	・芸術鑑賞会で「中国雑伎団」を実施、異文化を理解する事ができた（図書視聴覚部） ・いずれの活動についても熱心に最後まで取り組んだ。（３学年） ・海外修学旅行は学年団が団結し、「楽しかった」が9割と有意義であった。（２学年）	3.7			3.3	3.3	3.2	・公演を見て楽しむだけでなく、生徒達に深く鑑賞することができるよう指導の必要がある。 ・海外修学旅行の実施に向けて、情報を次の学年に伝えていく必要がある。
	６　各学科の特色を生かして創造性を養います ・各学科の特色ある教育活動を充実させます。 ・各学科の学習成果を共有させ視野を広げます。	・各学科の学習の成果の発表会を実施した。1年サイエンスセミナー、総学での課題研究、２年ＫＧＧＳ、３年は課題研究（商品開発）をそれぞれ発表した。	3.0			2.9	3.0	2.9	・各学科で独自に実施している内容を、共有する場や得られる効果を検討していく必要がある。
	７　授業等の充実に努め、学力向上を図ります ・基礎基本を定着させ、応用力を高めます。 ・教員相互の授業参観、授業研究を充実し、教科指導力の向上に努めます。	・教員相互の授業参観を呼びかけ、昨年度より実施回数が増加した。教科指導力、授業力の向上を図った（教務部）	3.0			3.0	3.2	3.2	・教員相互の授業参観はまだまだ不十分であり、これを推進するため、取組方法を工夫する必要がある。
	８　進路希望を１００%実現します ・進路実現の実力を養成する課外学習、模擬試験、検定試験にも積極的に取り組ませます。 ・キャリア教育を充実し、保護者との連携を深め、きめ細かい進学・就職指導を実施します。	・2/22現在合格者数： 国公立大15,私大115,私短12,看医専10,専門21,公務員18,就職14,留学2,未定20 ・「進路だより」を毎月発行し、情報の発信や進路相談、小論文、面接の個人指導を適宜実施した。（進路指導部） ・生徒の二・三者面談等を行い、進路意識の高揚、進路希望の把握を行った。（各学年）	3.2			3.2	3.1	3.1	・模試分析会を実施し、学年・教科の指導との連携を強める必要がある。 ・早期の進路意識の高揚や希望の把握（３年生は６月）を行い、各学年で必要な指導を適宜していく必要がある。